

20170217 関東交運労協 『2017 春闘勝利総決起集会』

関東交運労協は、田町交通ビルにて『2017 春闘勝利総決起集会』が開催され、8 産別の仲間、161 人が集結、県連より 3 人が参加しました。



滝 沢 議 長
(関東交運労協)

滝沢議長は主催者あいさつの中で「月例賃金の引き上げはもとより、労働時間の短縮にも積極的に取り組む事が大切。交渉の中で長時間労働のリスクをしっかりと訴え、総力を結集した春闘！」と位置づけました。

中央交運労協より、住野議長が激励に会場されました。

住野議長は、去年の軽井沢スキーバス転落事故を教訓として

、「『安心・安全』を第一に大臣告示ではあるもののルール（告示）を守る。守れない事業者は業界から退場していただかなくてはならない」。また、「2017 春闘は月例賃金にこだわった闘い。そして、人手不足の問題には真正面から取り組む」と中央情勢報告がされました。



住 野 議 長
(中央交運労協)

特別報告として、大妻女子大学より戸崎教授が社会・政治の状況、交運労協の運動展開などについて現況報告がありました。

戸崎氏は、「『安全』について、社会的にも政治的にも希薄になっている。今こそ、交運労協の全勢力を合わせ、世論に訴える。このままでは、交運労協の存在意義すらなくなる。このままでは、労働組合も必要なくなる事となる。それは、現在行われてようとしている『ライドシェア』がタクシーだけではなく、バス、鉄道、トラックに大きな影響を与える。一人一人が自

営主！となったら、安全は担保できなくなる。利便性や安価にとらわれ安全性は全く考えていない。」と指摘されました。



戸 崎 肇 教授
(大妻女子大学)



飯 泉 書記長
(運輸労連 茨城県連)

各産別代表者から『2017 春闘決意表明』がされました。

運輸労連代表で、茨城県連飯泉書記長が元気よく表明しました。

飯泉氏は「トラック運輸産業は、逼迫するドライバー不足や、これまでの過当競争により、産業を取り巻く環境は、より厳しさを増している。また、長時間労働が常態化しているにもかかわらず、我々の賃金は思うように回復せず生活実態は苦しくなるばかり」と現状を訴え、闘いとして「月例賃金にこだわる春闘と位置づけ、他産業との格差是正、組合員の処遇改善、定期昇給相当分の確保はもとより、賃金改善に向け、より強化した闘いを展開する」と表明し、具体的な取り組みを述べました。

各産別の代表者

・ 運輸労連	飯泉 誠	茨城県連 書記長
・ J R 連合	今井 孝治	関東地方協議会 事務局長
・ 私鉄総連	小川 悟	京成バス労働組合 執行委員長
・ K P U	荻原 節	神奈川地連 執行委員長
・ 国労	鈴木 郁夫	東日本本部 執行委員
・ 全自交	水野 潔	関東地方連合会 副執行委員長
・ J R 総連	倉茂 忠	関東地方協議会 幹事
・ 自治労都市交通	林崎 勝之	関東ブロック 事務局長



集会宣言の後、滝沢議長を中心に『ガンバロー』三唱にて、団結し終了した。